世界道路交通犠牲者の日

組織者のための指針

世界保健機関
（WHO）

World Health Organization

欧州道路交通
犠牲者連盟

FEVR

ロード
ピース

RoadPeace

謝辞

世界保健機関（WHO）、ロードピース、欧州道路交通犠牲者連盟は、この指針の作成に貢献してくださった全ての方々に感謝する。特に、

- 記者:Amy Aeron-ThomasとBrigitte Chaudhryは、道路交通犠牲者の慈善組織やNGOから情報を収集し、この指針作成の原稿を書いてくれた。
- 批評 :以下の諸氏。Heshman El Sayed, Mable Nakitto, Alice Nganwa, Ian Roberts, Mark Rosenberg, Cathy Silberman, Laura Sminkey, Rochelle Sobel, Christian Thomas, Tami Toroyan。
- 製作チーム :Margie Peden（総括責任）, Meleckidzedeck Khayesi（調整役）, Pascale Lanvers-Casasola（管理補助）, Aleen Squires（デザイン・レイアウト）, Angela Haden（編集）, Florian Zimmermann（校正）。

この指針の作成費は FIA Foundation for the Automobile and Society と Swedish International Development Corporation Agency から拠出を受けた。

表紙の写真:ポルトガルにおけるキャンドル点火の様子
© Pedro Costa/Lusa

WHO Library Cataloguing-in-Publication Data
World Day of Remembrance for Road Traffi c Victims : a guide for organizers / World Health Organization, RoadPeace and European Federation of Road Traffic Victims.
1.Accidents, Traffi c - prevention and control. 2.Wounds and injuries - prevention and control. 3.Anniversaries and special events. I.World Health Organization. II.RoadPeace (Organization) III.European Federation of Road Traffi c Victims.
ISBN 92 4 159452 7 (NLM classifi cation: WA 275)

© **World Health Organization 2006**

All rights reserved. Publications of the World Health Organization can be obtained from WHO Press, World Health Organization, 20 Avenue Appia, 1211 Geneva 27, Switzerland (tel.: +41 22 791 3264; fax: +41 22 791 4857; e-mail: bookorders@who.int). Requests for permission to reproduce or translate WHO publications – whether for sale or for noncommercial distribution – should be addressed to WHO Press, at the above address (fax: +41 22 791 4806; e-mail: permissions@who.int).

The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

The mention of specifi c companies or of certain manufacturers' products does not imply that they are endorsed or recommended by the World Health Organization in preference to others of a similar nature that are not mentioned. Errors and omissions excepted, the names of proprietary products are distinguished by initial capital letters.

All reasonable precautions have been taken by the World Health Organization to verify the information contained in this publication. However, the published material is being distributed without warranty of any kind, either expressed or implied. The responsibility for the interpretation and use of the material lies with the reader. In no event shall the World Health Organization be liable for damages arising from its use.

Layout and design by Aleen Squires.

Printed in France.

毎日のように、世界のどこかで、交通犯罪によってこの本の表題のような事態が起こっている。これらのニュースになるはずの出来事のいずれもが、死亡例であろうとなかろうと、かくも「日常茶飯事」になってしまったがゆえに、報道さえされなくなってしまった。

世界中では、交通犯罪によって毎日3400人以上の人々が亡くなっており、毎日万単位の人々が後遺症となる障害を負っている。これらの出来事が負傷の当事者とその家族・友人・地域社会にもたらしている悲惨さは計り知れない。

はじめに

1993年にイギリスで世界最初に道路交通犠牲者の日が行われ、以来、数々の国々のNGOによって組織されてきた。この記念日は、交通犯罪の犠牲者についての認識を広げ、それら犠牲者の愛する者たちが事件以来、感情的にも実生活上でも多大な困難を抱えて必死に戦っているという惨状について知ってもらうことを目的として始められた。

2005年10月26日に国連は、毎年11月の第3日曜日を「世界道路交通犠牲者の日」とすることを決議した。この記念日を実行することは、交通犯罪とその結果もたらされる事態・コスト・予防対策などに関する公共の関心を高めるよい機会となるし、交通安全に関する政府や社会の責任を思い出させる機会にもなる。

世界保健機関、ロードピース、欧州道路交通犠牲者連盟は、共同してこの「世界道路交通犠牲者の日:組織者のための指針」を作成したが、これは、この記念日に個人や組織がイベントを企画したり関連した提言を行ったりするのを組織者が促進できるようにすることを目的としている。地球規模の交通安全運動が世界中の国々で行われることで、この記念日が力を持ち、目に見えるものとなるであろうことが期待されている。

この指針には、この記念日が提言を行うよい機会として広く認められることを保証するために多くのセクターが協同するための数々のヒントが書かれている。私たちは、交通犯罪やその後遺症に関係する全ての人々が、自分たちが主張する提唱の足場として世界道路交通犠牲者の日を利用することを激励する。

Dr Etienne Krug
外傷暴力予防部門責任者
WHO

Ms Brigitte Chaudhry
創始者・代表
ロードピース
欧州道路交通犠牲者連盟

「公共の記念日は、犠牲者が自分たちに何が起こったのかを思い出すためのものではない。犠牲者は自分たちに何が起こったのかよく覚えている。公共の反応が、認識の度合いを表現する。犠牲者やその家族の人間性が重んじられ、これらの人々が喪失したものは我々が喪失したものであり、苦しみは分かち合うものであるということを犠牲者とその家族に表明することである。その悲劇と、起きてしまった過ちを、ただ認識するということを通じてのみであっても。」
（ホロコースト記念日ブックレット2007より）

イントロダクション

毎年、世界中では120万人の人々が交通犯罪で命を落とし、その背後に破壊された家族と地域社会を残している。死亡例のほとんどは若年者であり、彼らの人生の最も花である時期であり、家族や地域社会にとっては彼らの貢献と存在そのものが非常に大切なものなのである。このような痛ましい出来事の影響は、苦悩がさらに蓄積されてゆくことでより重大なものとなっている。すでに何百万人もの苦しんでいる人々の上に、さらに毎年何百万人もの犠牲者が加算され、喪失した者に対する他者の不適切な反応によってさらに苦悩が増強されるという、まさに想像を絶するものとなっている[1,2,3,4]。持続する情緒的・精神的な苦しみはもちろん、家族の一員を失ったことで家族に相当な経済的負担がのしかかる。多くの国で、長引く医療費、一家の大黒柱を失ったこと、障害者をケアするための資金などで、しばしば家族は貧困へと転落させられる[1,2,3,5,6]。問題の大きさにもかかわらず、交通犯罪による死亡、受傷、犠牲者の苦悩などの問題は今までほとんど無視され続けてきた[1,2,3,5,7,8,9]。仲間である犠牲者に支援を行ってきたのは主に非政府組織の犠牲者組織だけだったし、交通犯罪によって引き起こされる極限の人間的苦悩と社会の無関心に焦点を当てて人々の態度を変えようと努力してきたのもこれらの組織であった。年に一度、道路交通犠牲者を思い出す日を設定してこれらの犠牲者組織が記念する運動は1993年にイギリスで始まった。交通犯罪による死亡や負傷で壊滅的影響を受けること、支援が欠如していることを、より広く訴えるためである。この記念日は、今日では世界中に広がってきている。

道路交通犠牲者の日を宣伝する
スペインのポスター

なぜ世界道路交通犠牲者の日なのか？

イギリスのロードピースという道路交通犠牲者のチャリティー組織が、11月の第3日曜日を「道路交通犠牲者を追悼する日」と定めて、毎年記念することを1993年に開始した[10)]。以来、この日が遵守され、ロードピースや欧州道路交通犠牲者連盟やそれらの多くの関連組織によって世界中に広がっていった。

2005年10月26日の国連総会で、世界の道路交通安全の改善に関する決議60/5が採択された。この決議で、毎年11月の第3日曜日を道路交通犠牲者の記念日と定めたのである。

世界道路交通犠牲者の日は、交通犯罪が地域社会に与える負担の大きさを広く社会が認識し、この問題が公衆衛生や社会進歩にとって大問題であり、この問題の制御を開始し、発展させ、犠牲者を支援することなどが必要であるということを強調する年に一度の機会を提供するものである。

国連総会決議
60/5 世界道路交通安全の改善

総会

…10. 加盟国と国際社会に対して以下のことを要請する。毎年11月の第3日曜日を「世界道路交通犠牲者の日」と定め、交通犯罪の犠牲者とその家族を適切に認識し…

2005（http://daccess-ods.un.org/TMP/9982762.html）.

この指針は何のために？ 誰のために？

この指針は、組織や協会、個人などが、世界道路交通犠牲者の日にイベントを計画したり組織したりするための方法の指針を提供することを意図して作成された。実施可能なイベントや活動の例がアイデアとして示されているが、個別の地域や国のそれぞれの目的に合致するように進化させる必要があろう。

この指針は交通犯罪の関係者すべての人のために書かれている。NGOでも政府機関でも国際機関でも、世界道路交通犠牲者の日を記念して何かイベントを組織することに関心があれば用いることができよう。また、個人でも、犠牲者本人やその家族でも、研究者でも、医師でも、看護師でも、カウンセラーでも、救急隊員でも、市民活動の一員でも用いることができる。

この指針はどのようにして作られたか？

この指針は、WHO、ロードピース、欧州道路交通犠牲者連盟の3者が協同して作成したものである。まず、道路交通犠牲者のNGOの経験と、過去10年間に行われた様々な記念行事を第一の基本とした。情報を提供してくれたNGOのリストは〈付録1〉に挙げた。

概史

道路交通犠牲者の記念日を定めるという発想はイギリスの道路交通犠牲者のためのチャリティー組織であるロードピースから生まれた。11月の第3日曜日が選ばれたのは、その日が「追悼の日曜日」と呼ばれるイギリスと英連邦で戦争や紛争で亡くなった人々を想いだす日であることにちなんでいる。

「追悼の日曜日」は、軍人によって払われた犠牲をイギリスの人々に想起し、考えさせる機会となっている[11)]。戦争と交通犯罪は良く似ている。最も犠牲になるのは若者であり、男であり、どちらもおぞましい外傷である。「道路交通犠牲者を追悼する日」は交通死によって引き起こされる惨状と、遺族や社会に及ぼす影響の深刻さに焦点をあてた。この悲惨な公衆衛生上の問題は法的にも社会的にも、もっと適切に取り上げられるべきである。

長年の間、欧州道路交通犠牲者連盟の関連組織は、この日を「欧州道路交通犠牲者の日」と定めて、実行してきた。徐々に他の大陸にも広がり、2004年までには地球規模となり、非公式に世界道路交通犠牲者記念日として知られるようになった。2005年10月26日、国連は全加盟国に対してこの日を道路交通犠牲者記念日とすることを総会で決めた。

世界道路交通犠牲者記念日が出来上がるまでの概要

1993年➡

イギリスで、ロードピースが記念日を開始し、発展に努力した。

- ロードピースはイベントを企画し、記者会見やファクトシートの作成などの宣伝活動を行った。
- ロードピースは祈りの場所を設定し、ロンドンで年に一度の特別な礼拝を始めた。
- 過去には悲惨な事件を個人的に礼拝するだけだったが、この記念日によってこの礼拝は定期化され、より大規模で広く取り組まれるようになった。

1995年➡

この記念日はイギリスじゅうに、そして欧州じゅうに広がった。

- 1995年にはバース、ケンブリッジ、コベントリー、リーズ、リバプール、ロンドン、ニューキャッスルで礼拝が行われたが、その後すぐに国内30ケ所へと広がった。
- 1995年にベルギーのリエージュで行われた欧州道路交通犠牲者連盟の総会で、代表団はこの記念日の案を支持し、この儀式に参加することに合意した。
- この記念日は、欧州道路交通犠牲者の日として知られるようになった。欧州道路交通犠牲者連盟の傘下に、多くの組織が交通犯罪による死傷の問題をそれぞれの国で大きく取り上げるようになった。
- オーストリア、ルクセンブルグ、オランダなどの犠牲者組織は1996年の最初から記念日に取り組んだし、ベルギー、ドイツ、イタリア、ポルトガル、スペインがそれに続いた。

1998年➡

この記念日はヨーロッパを越えて広がって行った。

- 欧州道路交通犠牲者の日は、アルゼンチン、オーストラリア、イスラエル、南アフリカ、トリニダードなどでも採用され、儀式が行われた。

2003年➡

国連総会が、この記念日におすみつきを与えた。

- 世界保健機構は道路交通犠牲者のNGOや慈善事業団体の会合を主催し、その中の一つの議題は、いかにして国連でこの記念日を位置づけさせるかという議論であった。
- 2004年の国連総会における交通犯罪の危機に関する議論の最中に、バングラデシュの大使が交通犯罪による死者や負傷者の多大な犠牲に焦点を当てた特別な日を設けることを要求した。
- 2006年10月26日に、国連総会の決議で世界道路交通犠牲者の日が定められ、すべての加盟国と国際社会にこの記念日を認識することを要請した。

300組のクツは毎月イギリスで交通犯罪で亡くなっている人の数と同じで、交通犯罪の悲しみを象徴している。

開始

世界道路交通犠牲者の日を計画し、準備するには8つのステップがある。全てのステップは相互に関連しており同時進行で実施するものかもしれない。例えば日付の公表は、目的とカギになるメッセージが出来上がれば直ちに実行できるし、かつ全準備期間を通じて続けることができる。8つのステップとは、以下の通りである。

ステップ1：作業部会から始める
ステップ2：目的とカギになるメッセージを作成する
ステップ3：政治的支援をとりつける
ステップ4：パートナーを広げる
ステップ5：資金の確保
ステップ6：世界道路交通犠牲者の日を広報する
ステップ7：活動を組織する
ステップ8：取り組みの過程を評価する

計画には、それによって何を達成しようとしているのかということをよく考えることが重要である。それは記念のための礼拝もしくは集会なのか、あるいは現実の教訓に関して意見を述べ合ったり学んだりすることが目的なのか。例えば交通犯罪の死傷あるいはそれらの犠牲者に対してどう認識しているのかといったことである。イベントの目的を決めることはそのイベントの形式がどのようなものになってゆくのかと、その組織に加わってもらうのはどのような人々なのかということに影響してくる。

ステップ 1:

作業部会から始める

ひとつの小さな作業部会は、たとえそれが全国レベル、都市レベル、地域レベルの取り組みであっても世界道路交通犠牲者の日の計画・組織・促進に有用である。

理想的には、作業部会には異なったセクターからメンバーを選ぶべきで、道路交通犠牲者をかならず含めるのがよい。この部会ではファシリテーターまたはコーディネーターを決めるのがよい。決定は集団で行うべきである。

この作業部会の主な任務は以下のようなものである。

- 記念日の目的とカギになるメッセージを作成する。
- 行事を練って、決定する。
- 開催地を決めて、確保する。
- 行事予定と関連資材を作成する。
- 演者や来賓を招待する。
- 当日のイベントの実施を監督する。
- 記念日を公表し宣伝する。
- 計画のプロセスと活動の効果評価を行う。

定期化された作業部会ができてもよい。それはその後も存続する連絡組織となるかもしれない。どんなに小さな作業部会あっても、毎年行われる世界道路交通犠牲者の日のための行事を計画し組織することができよう。

ステップ 2:

目的とカギになるメッセージを作成する

世界道路交通犠牲者の日の儀式を行う目的は以下のようなものである。

- 亡くなった人々を追悼し、遺族の苦しみに共感する。
- 交通犯罪の事後に関わる人々、すなわち、消防士、警察、救急隊員、医師、看護師、カウンセラー、その他交通犯罪によって生じる悲惨な体験を日常の仕事として行い、それによって影響を受けている人々が行ってきた仕事に感謝を表す。
- 流行的規模で拡大している交通犯罪による死傷、どのような道路使用者もリスクがあることについて注目を集めさせる。
- 交通犯罪が家族や地域社会に与える影響の大きさと、遺族や犠牲者の事件後のケアの改善やサポートの必要性について、社会の意識を高める。
- 交通犯罪の防止可能性、交通違反にもっときびしく対処することの重要性に焦点を当てる。
- 誰でもが交通犯罪予防に寄与できるということを想起させる機会となるようにする。

組織者たちは上記の目的のうち一つ、もしくは複数を選択し、個々の地域や計画に適合したものになるようにする。

世界道路交通犠牲者の日のカギとなるメッセージには、それぞれの国、都市、地域での実例や該当データなどが活用できる。

カギとなるメッセージ：地域の状況を反映するように実例を脚色できる

交通犯罪の死傷者数は毎年何百万人にも及ぶ

交通犯罪は主な死亡原因の一つであり、毎年120万人以上の人が交通犯罪で亡くなっている。世界のどこかで歩行中に、自転車乗車中に、クルマに乗っていて、死亡する男性・女性・こどもの数は毎日毎日3,400人を超えている。そして、それらの人々は二度と家に帰っては来ない。交通犯罪で負傷する人の数は死者を除いて毎年2～5千万人で、これらの死傷者の数は気が遠くなるような数である。そして、犠牲者の多くは若くて健康な世代の人々であり、人生の盛り、家族の主な働き手であることから、これらの悲劇はさらに深刻なものとなっている。

交通犯罪による死傷は予防できる

衝突は予測でき、したがって予防可能である。有効な予防策を講じることで件数や死傷者数を大幅に減らしてきている国々は数多くある。ある国で実施された模範例は、他の国でも採用できるし、適用できる。

交通犯罪は個人や家族、地域社会に対して膨大なコストを課す

交通犯罪の死者数の集計は、その事件が起こった年だけのことであるが、家族にとっての悲しみはその後も永遠に続く。遺族の数は統計では集計されないし、交通犯罪のデータには含まれていない。それ以外にも、友人を亡くした、同僚を亡くした、地域社会や近隣の一員を亡くしたことで、深く傷ついている人々がたくさんいる。

家族が被る急性の悪影響に加えて、国家が被るコストは世界全体で年間5180億ドルに達する。低開発国あるいは中開発国においては、そのコストは年間約650億ドルであり、それらの国々が年間に受け取るODA総額の金額を超えている。救急医療の分野では、それらに従事する人々は日常的に事件現場に直面しているので、その悪影響は同様に深刻である。交通犯罪は砕かれた家族と地域社会を後遺症として残すのである。

負傷者本人や遺族に対して支援やケアを施すことは事件後になすべき不可欠な事項

他のいかなる病気でもそうであるが、予防だけが全てではない。苦しみを和らげることは、どのような対策にも必要である。犠牲者に対して、例えば必要な情報へのアクセス、法的手続きに関する支援、理学療法、カウンセリング、車イスなどのリハビリ用具の提供、日常生活のケア、などのサービスは政府・NGO・私的セクターなどによって計画され、提供される必要がある。

世界規模での交通犯罪増加の危機に対しては強力な政治的コミットメントが必要

交通安全の発展は自然に発生するものではない。それには、有効な法制化、戦略、政策、計画といった様々な形での政治的コミットメントが必要であり、それらを実施に移すための適切な予算化が必要となる。この重大な公衆衛生上の健康問題を緊急の事態として、責任を持って解決することは、政府の基本的義務の一つである。

Road traffic collisions kill and injure millions of people every year

ステップ 3:
政治的支援をとりつける

政治的な支持と関与への約束は、その国の交通安全計画の前進や実行にとって必要であるだけでなく、世界道路交通犠牲者の日のような特別な行事にとっても必要である。計画者は、交通安全を促進する活動に対する政府の支持を得ることや、交通犯罪による死傷がその国や都市にとってより重要な問題として優先度を引き上げる確約を得るように努力すべきである。

2001年に、ロンドンのケン・リビングストン市長は世界道路交通犠牲者の日の前日の金曜日に交通安全計画を発表し、その日に、世界道路交通犠牲者の日に自らが関与して行く確約を示した。この二つの行事が記者会見という形で連携したのである。

ベテラン議員、政府官僚、皇族、宗教の指導者、有名人などは、この記念日やこの記念日が持つメッセージを広めるのに役立つ最たる例である。これらの人々とのつながりは記念日の後も維持され、例えば下記のように、年間を通じた取り組みや活動につながってゆく。

- 道路交通犠牲者の権利を改善する。
- 交通犯罪を国会や地方議会の議題にあげさせる。
- その国、あるいは地方の交通安全行動計画の作成や実施を促す急先鋒となることができる。
- 道路交通犠牲者の支援や交通安全活動に資金や人材を動員できる。
- この記念日を国家的取り組みとするよう政治的支持を得ることができる。

ステップ 4:
パートナーを広げる

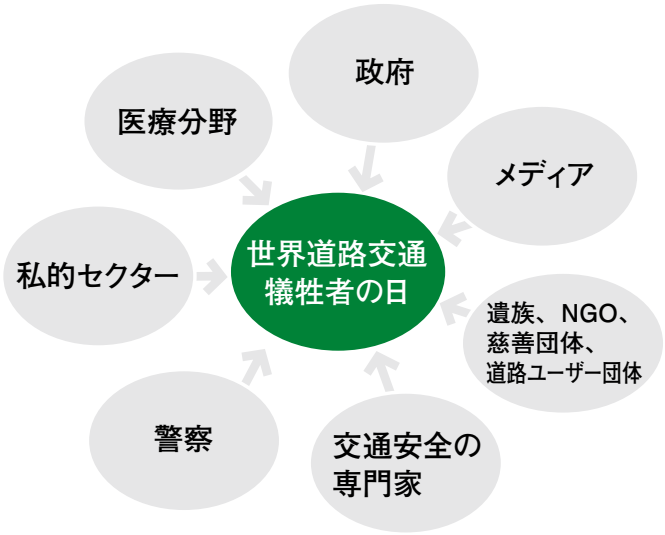
交通犯罪は誰にでも起こりえる。それゆえ、世界道路交通犠牲者の日やその前後の行事を計画するにあたって、魅力的なパートナーと関係できる可能性は非常に大きい。パートナーシップは広範囲であるべきで、政治（国家レベルでも地方レベルでも）、産業、機関、NGOなどの代表者を含めるようにする。

計画した行事がねらっている目的によって、その行事がどのような形で行われるのか、どのような人を参加させるべきか（組織する側であっても聴衆の側であっても）が決まるであろう。パートナーとして明らかなのは以下のような人々である。

- 事件の後に直接被害を被った人々。例えば、事件の犠牲者、救急医療のスタッフ、外傷・リハビリの専門家、カウンセラー、セラピスト、遺族の代表、他の支援団体、など。
- 交通犯罪予防の分野で働いてる人々。例えば、エンジシア、運輸交通研究者、交通安全の専門家、広報係、教師、など。
- 道路交通法を取り締まり、実施している人々。例えば、警察官、弁護士、法務官、裁判官、など。
- 異なった道路ユーザー集団あるいは組織の代表。例えば、職業ドライバー、クルマ、バイク、自転車、歩行者の代表、およびそれらを代表する組織。
- 社会正義や人権のために活動している人々。例えば、様々な宗教や団体の代表者、など。

イタリアでの犠牲者の日の式典2005年

世界道路交通犠牲者の日にとってカギとなるパートナー



パートナーシップの実例

オーストラリア

オーストラリアでは、世界道路交通犠牲者の日の式典が Road Trauma Support Team Victoria Inc. の後援で行われ、以下の団体が賛助した。Bicycle Victoria, County Fire Authority, Epworth Hospital, Leaders of Faith Communities Forum, Metropolitan Ambulance Service, Metropolitan Fire and Emergency Services, Motorcycle Riders Assosciation of Australia, Automobile Club Victoria, State Emergency Service, Transport Accident Commission, Uniting Church Synod of Victoria & Tasmania, Victorian Council of Churches, the Victoria Police.

ポルトガル

ポルトガルでは、エストラダ・ビバ(Estrada Viva)という反外傷連合が2004年の世界道路交通犠牲者の日にポルトガル犠牲者組織によって立ち上げられた。これを協賛したのは以下のような27の外傷関連組織であった。the Associations for Emergency Medicine, Trauma Professionals, Nurses, Psychologists, Child Safety Professionals, Associations for Families.

ステップ 5:
資金の確保

あるイベント、あるいは複数のイベントを組織し実行するための費用を計算し、予算計画を立てなければならない。基本的な費用には以下のようなものがある。

- 開催地の費用(車イスの参加者がアクセスできるように配慮すること)
- プログラムの作成
- 式典でのパフォーマンス(合唱や歌手などを含む)
- 軽い飲み物など
- 広報(写真撮影、記者会見や記事などの配布)
- 世界道路交通犠牲者の日の式典専用の特別なホムページの作成と維持

以下のような組織がスポンサーになってくれる可能性がある。

- 中央政府の省庁
- 地方機関
- 保険会社
- 私企業や会社
- 博愛基金
- 宗教団体
- 国際機関
- 遺族を含む個人
- 大学などの高度教育機関
- 旅行団体
- マスコミ

スポンサーとなってくれる可能性がるところにアプローチして、様々な予算項目のうちのどこをサポートして欲しいかを依頼する。例えば、マスコミには広報のための資金調達や無料の広報をお願いする。もちろん現物での貢献もありえるので、予算化の時に具体的に明示できるように考慮しておく。例えば、道路交通犠牲者たちはイベントを組織するために常に献身的に時間と労力を払ってきた。

ステップ 6:
世界道路交通犠牲者の日を広報する

計画した活動にできるだけ多くの人が参加し、関心をもてるようにすることが重要である。そのためには、以下のような方法がある。

- この記念日の計画を支援してくれている組織や、その他のパートナー組織のホームページに情報を掲示してもらう。
- この記念日専用のホ-ムページをつくる。
- 全国紙、地方紙など、新聞にプレス・リリースを送りつける。様々なコミュニティーや信条団体などの異言語の新聞も含むし、テレビ局やラジオ局、宗教、医療、運輸、犯罪などの専門家の窓口へも送る。
- 有名人も一緒にやっていることをマスコミを通じて広報し、認知度を高める。
- 全ての関係団体に招待状を送る。例えば、救急医療、信条団体、遺族や障害者支援団体など。
- 関連する政府組織、NGOはもちろん大使館にも招待状を送る。
- ポスターやリーフレット、くちこみなどを使ってメッセージを広める。

広報の要点は、当日の簡単な紹介、目的、計画されている行事などと、日時、場所、組織者への連絡方法などである。もし可能ならば、過去の行事での写真やプログラムを入れてもよい。

マスコミを動員する

計画段階、当日、事後の活動にもマスコミに関わらせることが重要である。マスコミは公衆にこの記念日の情報を提供するだけでなく、公衆、政府、他の利害関係者に対して意識を高め、適切に行動させるように仕向けることができる。出版、テレビ、ラジオなど全てのマスコミを動員せよ。

マスコミを動員する実際の方法とは、

- 記者会見を開く
- テレビやラジオのトークショーを組織する
- 印字メディアに公開状を掲載する
- 新聞の別冊特集をアレンジする
- テレビ討論の番組を組ませる

ステップ 7:
活動を組織する

世界道路交通犠牲者の日を実行する意志のあるいかなる組織や個人は、今までに無い活動を模索し、ここに示されたヒントをもとにして、自分たちの活動の目的や立場に合わせて、これらを採用することが求められている。

この章に書かれている過去の活動の実例は、何ができるかを説明するためのものである。活動は別々に取り組まれていても、お互いに補い合う性質を持っている。組織者は一つの活動だけではなく複数の活動を行うことが求められている。

ポルトガルのエヴォラ自主行動市民連合によって行われた2004年記念日での様々な活動の実例

2004年11月20日(土)

22:00～ サレジアン講堂にて
- ショー / ミュージカル
- 交通犯罪に関するDVD映写

2004年11月21日(日)

10:00～ ヴィンセント教会にて
- 小学生による交通犯罪を主題にした作品展

10:30～ ジラルド広場にて
- 終日メモリアルセレモニーの開始。参列者は交通犯罪の犠牲者 ~親族、友人、知人、そして見知らぬ人であっても~ に思いを込めて一本の棒を捧げる。

10:30～ エヴォラ教会聖堂にて
- 鐘を鳴らす

10:30～ 第一五月広場にて
- 終日展示の開始:アトラクション

11:00～ 市役所にて
- 儀式

12:30～ ジラルド広場にて
- ハトの放鳥

15:00～ 市役所にて
- 交通安全戦略のセッション

17:00～ エボラにある聖ヴィンセント教会にて
- 合唱団によるコンサート

宗教的儀式

宗教的儀式は、世界道路交通犠牲者の日を記念する方法として最初に行われたもので、以後も最も一般的に行われている方法である。宗教的儀式は単一の宗教の手で、その宗教あるいは信条集団のために行われる可能性がある。人道的儀式という形で組織することもできる。

南アフリカの超宗派的儀式

1998年、南アフリカの交通安全・道路交通犠牲者NGOである「Drive Alive」は、ヨハネスブルグにあるスタンダード銀行アリーナにおいて宗派を超えて行う儀式を持った。主要宗派の主導者と運輸大臣が出席した。救済軍という名のブラスバンドと6つの聖歌隊が儀式の一部として音楽を披露した。

たとえ、ある特定の宗教の礼拝場所で行事が行われたとしても、どのような信条や経歴をもった人でも以下のように参加することができる。

- 心情的支援や援護などのスピーチをすること。
- 経典を読むこと。
- 犠牲者の名前と年齢を読み上げること、遺族あるいは負傷者が記名をすること。
- 亡くなった人やその遺族にための祈りを先導する。
- 詩を読む。
- 犠牲者のためのキャンドルライトを掲げる。
- 信徒たちに配布される宗派内のお知らせなどにこの記念日のことを特集したり、激励したりする。
- 記念日前のまるまる1週間のあいだ、お説教で交通犯罪やその犠牲者に関する問題を取り上げたり、記念日を激励したりする。

メルボルンでのセレモニーへの招待状（2005年）

2002年オーストリアでの記念日

2002年、オーストリアのウイーンで開かれた記念儀式は異なった様々な宗教や信条の指導者が参加した。この儀式は道路交通犠牲者欧州連盟の傘下にあるオーストリア組織のローテ・ドライアック氏によって組織された。

レバノンでの、ある犠牲者のための記念セレモニー

2005年、社会意識向上若者連合（YASA）は、ゼイナ・アル・ハウチという学校を卒業して間もない日に交通犯罪で亡くなった若者を追悼するセレモニーを組織した。このセレモニーは彼女が通っていたノートルダム・デ・ジャムール校で行われ、200人以上の父兄親、生徒、職員が参加した。式は世界中の道路交通犠牲者を追悼する黙祷で始まった。ゼイナへの追悼の言葉が彼女の友人と彼女の母親から述べられた。

YASAは交通安全に関するメッセージを述べた。この式は、ゼイナ・アル・ハウチ基金という名前の人道主義基金を開始するために行われたのである。

記念日の儀式で行う社会提案のためのメッセ-ジの例

「それはまさに規模がますます拡大を続けているからであり、緊急の対策をとらなければならないのです。交通犯罪の問題をこれまで議題に挙げる労力をはらってきたのは大部分が犠牲者の人々でした。しかし、私たちは自分たちに起こった悲劇と経済的支援の欠如によってますます弱者とさせられており、したがって、この戦いは一時的なものではなく永続して行くのです。このことは、単に不当であるというだけではなく、今後も発生する将来の犠牲者に対して近視眼的であり、無責任でもあるのです。」

ロンドンにおける2001年式典でのロードピース創始者によるスピーチより

「今日、この日曜日は世界道路交通犠牲者の日である。私は、悲劇的にも交通犯罪で自らの命を落とした全ての人々に対する主の哀れみを祈願する。負傷した者に神のご加護をお願いする。その負傷はしばしば生涯におよび、のみならずそれら者たちの試練を助けている家族の者たちにも神のご加護をお願いする。ドライバーたちに注意力と責任を喚起する。それによって、すべてのドライバーが常に他者に敬意を払うであろう。」

2001年 法王ヨハネ・パウロ2世の祈祷より

誰も宣言していない第三次世界大戦

千七百万人の死者、
その数はというと。
死の収容所の2倍以上、
韓国の死者数の18倍。
ベトナムの17倍。
広島で殺された数の130倍、
北アイルランドの8500倍……
1週間の百年戦争。
30秒足らずの十字軍。
ありふれた大虐殺……誰も第三次世界大戦の宣戦布告の労をとっていないのに。

英国の詩人であるヒースコート・ウィリアムズが、1997年に欧州道路交通犠牲者の日のために寄せた詩の抜粋

……あなたの子どもたちはあなたの子どもたちではない。
命そのものを欲しつづける「生命」というものの息子たちであり娘たちなのだ。
あなたを介して生まれただけで、あなたから生まれたわけではなく、
さらに、あなたと一緒にいるというだけで、ましてや、あなたに属しているわけではない。
子どもたちにあなたの愛を与えることはできるかも知れないが、思想は与えられない。
なぜなら、彼らは自分自身の思想を持っているからである。
子どもたちの身体に対して家を与えることはできても、魂を家で囲むことはできない。
なぜなら、彼らの魂は未来という家に住んでいるからであり、
あなたは未来の家に行くことはできない。たとえ夢の中であってでさえ……

「予言」(レバノンの哲学者であるカリル・ギブラン著、1991年)より引用。この詩は南アフリカとロンドンのセレモニーで引用された。

記念のしるし

記念碑は伝統的に物理的場所として、以下のどちらもありえる。

– モニュメント、庭、特殊な建造物または像。

– インターネットを基本とする。 いくつかの道路交通犠牲者NGOは、インターネット上に道路交通死傷者のための記念碑をセットアップし、いくつかの国で地方レベルあるいは全国レベルで道路交通犠牲者のための記念碑を立ち上げるのに当局と伴に動いている。道路交通犠牲者の日を機会として以下のようなことができる。

- 記念のしるしを立ち上げる、あるいは除幕する。
- 記念庭園に植樹する。
- 記念のしるしのある場所に花輪を敷きつめたり、何か他の記念になる物を置く。
- 記念のしるしに写真や花などを展示する。
- インターネット記念碑へのエントリーを招待する。

ポルトガルでのキャンドル点火

ポルトガル自主行動市民連合は、2004年の記念日に反事件生活道路連合(Estrada Viva Liga contra o Trauma)を立ち上げ、道路交通犠牲者のためだけの記念行事をセットアップした。キャンドルの点火という記念を、ポルトガルのエボラにあるこの連合組織の一つが2004年に始めた(表紙の写真)。

南アフリカ、ヨハネスブルグに開いた記念庭園

2004年11月21日、WHOとヨハネスブルグ市民公園と共催してDrive Aliveはオレンジ農園公園という広大な非公式の開拓地に記念庭園を開園した。これはDrive Alive が記念に開園した4番目の庭園である。それまでの3つの庭園とは、サニングヒルにあるエジソン公園、レナシアにあるバラ園、ソウェトにあるモフォロ公園である。木々はヨハネスブルグ市民公園が寄贈し、Drive Aliveの会員の追悼に寄贈されたベンチが庭園に設置された。南アフリカで交通犯罪にあって命を亡くした愛する人々を追悼して記念の銘板が庭園の木々に取り付けられ、南アフリカ地域における交通安全の意識向上に役割をはたしている。

インターネットに載っている交通犯罪の事例

「サリムとサリマー」は、オマーンを拠点にするNGOで、交通犯罪という不必要な死傷を減らすことを使命として活動している。この組織はネット上に「個別の事件事例」を載せており、親族がこのページに関与している。
(WWW.salimandsalimah.org/personal.htm)

黙祷や音を出す取り組み

黙祷や音を出す取り組みは道路交通犠牲者を追悼するもう一つの方法である。例えば、2004年の世界道路交通犠牲者の日の正午に1分間の黙祷がアルゼンチン全土で取り組まれた。スペインでは、国内の多くの箇所で毎年、この日に1分間の黙祷が取り組まれている。宗教的な場所であれば、鐘を鳴らすことで交通犯罪の問題の重要性に人々の注目を集めることができよう。鐘を特定の時間に鳴らすとか、交通災害の象徴として音響システムを突然狂わせるなども可能であり、実際、これらはポルトガルで取り組まれた。

セミナーやワークショップ

学術的な研究機関やその他の利害関係にあるパートナーと共催して交通犯罪に関する研究成果を発表し、様々な議論を行うためのセミナーが組織できるかもしれない。外傷治療について、喪の支援について、事件調査について、道路のリスクについて、交通安全対策について……など。このようなセミナーは記念日の当日でもプレ企画でも可能である。過去に取り組まれた実例を下記に挙げた。

- 交通安全の戦略(2004年、ポルトガル)。
- 戦争と道路平和(War and RoadPeace) (2004年、英国)。
- 事件の翌日(2004年、ギリシャ)。
- 交通犯罪で死んだ若者と、その遺族である兄弟(2005年、ベルギー)

展示や展覧会

展示や展覧会は、交通犯罪の死傷に関して、あるいは遺族の状況などについて具体的な問題に焦点を当てて、実施することができる。展覧会は、より長い期間展示できるので、より多くの影響を与える機会となるという利点がある。被害者組織が行った展覧会の例では、数日から、1ヶ月に及ぶものまであった。以下は、過去に実際に取り組まれた実例である。

- 百名の犠牲者の名前をボードに記載し、展示する。
- 交通死の統計を展示し、電子回路を使った時計で、死のカウントダウンを行う。
- 事件の犠牲者の写真や遺品(服やクツなど)を展示する。
- 道路の上の方に設置される電子道路標識を展示する。
- シルエットを台紙に張って展示する。
- 子どもたちが描いた絵の展覧会をする
- 遺族や犠牲者、事件現場などの写真の展覧会をひらく。

高さ80mの映像を投射:ロンドンにて

2003年、ロードピースは高さ80mの道路交通犠牲者の像を記念日の1週間前からロンドン市役所に投射した。写真以外にも、ロンドン、英国、欧州、そして世界の交通犯罪の規模と様相についての統計を、ロードピースの「リメンバー・ミー」の銘板の像とともに投射した。その中に「交通戦争」というメッセージ入れられ、詳細なデータがロードピースのホ-ムページで見ることができた。

クツの展示

ロードピースと交通安全分野の役人とが一緒になって、交通犯罪の悲惨さに世間の関心を集める方法として、しばしばクツの展示を行ってきた。英国における交通犯罪による月間死者数である300対のクツと、1週間死者数である70対のクツを展示した(5ページの写真を参照)。

行列や行進

行列や行進は、その他取り組みの一つである。例えば、スピーチをする、野外で集会を開く、遺族のいる家や病院を訪れたり、前で止まったりという活動である。以下は、近年行われた行列や行進の実例である。

- ルクセンブルグ国内で交通犯罪によって亡くなった人を象徴して白い衣服をまとった若者たちが行進する「白装束の行進」が、全国道路交通被害者の会によって2004年に行われた(次のページの写真)。
- 道路交通犠牲者イタリアの会は、2005年にローマで行われるセレモニーへ向けて行進を組織した。
- 道路交通犠牲者家族会は、2004年に、アルゼンチンのブエノスアイレスでプラカードやキャンドルを持って行列を行った。
- ポルトガルでは、2004年に the Associao de Cidadaos Auto-Mobilizados が行列を行い、エボラ広場で追悼を記念してハトを放鳥した。

2004年、ルクセンブルグにて、交通犠牲者を追悼した54人

コンサートや音楽

記念日を目立たせるたり、コンサートによって特定の個人や事件の犠牲者全員を追悼することができる。コンサートの形式は、単独の聖歌隊やバンドであってもよいし、複数のミュージシャンたちによる大きなコンサートでもよい。名声高い開催地で行うのもよい。通常、スピーチでは記念日のことに言及し、位の高い人を招待して行ってもらうこともできる。そこでの音楽は、場合によって、その日のために特別に作曲してもうこともある。英国では、この記念日のために、国際的に活躍する3人のミュージシャンによって「リメンバーミー」というCDが作成された。その作曲集の中に「アテーネの歌」があり、この曲はジョン・タベナーが作曲し、自転車に乗っていて交通犯罪にあった若者アテーネ・ハリアードを追悼してつくられたものである。

ロンドンで行われたコンサート

2004年11月26日にロンドンの有名なウィグモアホールでコンサートが開かれた。このコンサートは、クリストファー・グレイという若者の悲惨な交通死と、その他多数の道路交通犠牲者を追悼する目的で開かれた。ロードピースが主催したのであるが、多数の参加者の中に、交通安全に関するロンドン市長代理、WHO代表、フランスの外交官の姿も見られた。

が街を行進した。この小さな国で1年間に交通犯罪で死亡した54人を象徴して。

2004年にロンドンのウィグモアホールで行われた追悼コンサートのプログラム

情報を広める

当日およびその1週間前から以下のように情報を広めることができる。

- 交通犯罪の問題の大きさと、それらが家族や社会に与える影響についての情報を記者会見などの場で発表する。
- 遺族の証言集などを流布する。
- 交通安全のドキュメンタリーや映画を上映する。
- 交通安全のメッセージの入ったカレンダーを配る。
- ラジオやテレビなどのトークショー。
- 子ども向けの教材パックを配布する。
- 地域紙や全国紙などに投稿する。

出版、テレビ、ラジオなどすべての種類のメディアを巻き込むのが望ましい。

コンペなど

小中学生や若者を対象としたポスターや随筆などの競技会を組織することができる。題材を選ぶ必要があり、参加する可能性のある人が要項を見られるようにする。随筆の選考基準を練って適用する。作品の評価がすべての参加者に伝わるようにする。ポスターや随筆に対して賞を授与しても良い。それらの作品をこの犠牲者の日のセミナーや宗教的儀式の際に展示したり、朗読してもよい。これらを組織する者にとって難しいのは、競争心が決してパートナーシップや共同の邪魔にならないように留意することである。

© Abdullah Hameed

エジプトの交通安全児童絵画コンペ

ステップ 8:

取り組みの過程を評価する

世界道路交通犠牲者の日までの取り組みの過程と、当日に行われた取り組みの評価を行うことは、以下の意味で重要である。

- 目的が達成されたかどうか。
- 探求すべき強調点や機会に焦点をあてる。
- 避けるべきミスを指摘する。
- 取り組みが、その国や都市での交通安全への取り組みを強調し、持続させることに対してどのように役立ったか。
- 将来の計画のために情報を提供する。
- 数ヵ月後に追跡すべき問題をあげておく。

組織することに関わった者たちは、記念日の後すぐに評価を行うようにする。組織者たち向けの簡単な評価書式が用意されている(付録2)。これを自分たち用に作りかえて使用することをすすめる。組織者たちは、将来の情報や実際の使用のために、何を行ったかの記録を残してゆくことを急務とすべきである。例えば、取り組みやスポンサーの一覧、タイムテーブル、招待状やプログラム、記者会見、新聞の切り抜きなどのいくつかである。

世界道路交通犠牲者の日は、交通犯罪によって世界全体で何百万人もの人々が亡くなっているという事実を認識し、交通犯罪が及ぼす遺族への破滅的影響や、本人とその家族、社会に及ぼす傷害に対しての社会的関心を引き出すための機会を年に一度、提供するものである。この指針は、組織に参加する方法と、この特別な日を記念する方法について示唆を与えるものである。

結び

私たちの望みは、この記念日を国連総会が認めて世界的記念日としてお墨付きを与えたことによって、拡大しつつある交通犯罪の問題、そしてその結果生じる悲惨な影響、危急に立ち上がる必要性について、世界中で認識が高まるようになることである。

知識を共有し、交通安全により強く関与してゆくことに、この記念日は促進的にはたらくであろう。私たちが望むのは、すべての利害関係者とパートナーたちの共同によって犠牲者へのケアやサポートがよりよいものになり、将来の犠牲者数が減り、世界規模、大陸規模、国家規模、そして地域規模で交通安全対策がさらに前進してゆくことである。

私たちは、世界中の国々が、この世界道路交通犠牲者の日に参加することを期待している。もし、それが実現するなら、この記念日は、交通犯罪で死傷した人々を追悼し、死者、生存者、その家族たちの勇気、忍耐、寛大さを記念する、永続する代表的な記念日となるであろう。

参考文献

1. Haegi M. A new deal for road crash victims. *British Medical Journal*, 2002, 324: 1110.
2. Browning R. Where are the protests. *British Medical Journal*, 2002, 324: 1165.
3. RoadPeace. Road crash not road accident. Briefing sheet, RoadPeace, 2006.
4. RoadPeace. A road death is not a normal death; aggrevated bereavement. Briefing sheet, RoadPeace, 2006.
5. Peden M et al. *World report on road traffic injury prevention.* Geneva, World Health Organization, 2004.
6. Aeron-Thomas et al. The involvement and impact of road crashes on the poor: Bangladesh and India case studies. Unpublished project report. Transport Research Laboratory, 2004 (PPR 010).
7. Commission for Global Road Safety. *Make roads safe: a new priority for sustainable development.* London, Commission for Global Road Safety, 2006.
8. Adams J. *What kills you matters - not numbers.* Social Affairs Unit, 2005 (http://www.socialaffairsunit.org.uk/blog/archives/000512.php, accessed 29 June 2006).
9. Haegi M, Chaudhry B, Barry J. *Impact of death and injury. Research into the principal causes of the decline in quality of life and living standards suffered by road crash victims and victim families. Proposals for Improvements.* Geneva, Federation Europeenne des Victims de la Route, 1997.
10. RoadPeace. RoadPeace's Day of Remembrance for Road Traffic Victimes is adopted by the United Nations. *SafetyFirst,* 2006, 23: 4 – 6.
11. *Remembrance Sunday.* London, Royal British Legion, 2006 (http://www.britishlegion.org.uk/index.cfm?asset_id=508933, accessed 10 August 2006).

付録 1

主な道路交通犠牲者のNGO

NGO（非政府組織）	Web アドレス
Associacao de Cidadaos Auto-Mobilizados, Portugal	www.aca-m.org
Association for Safe International Road Travel, United Sates of America	www..asirt.org
Association nationale des Victims de la Route, Lexemberg	www..avr.lu
Associazione Familiari e Vittime della Strada, Italy	www.vittimestrada.org
Dignitas, Germany	www..dignitas-ev.de
Drive Alive, South Africa	www.drivealive.org.za
European Federation of Traffic Victims, Switzerland	www.fevr.org
Familiares y Victias de Accidentes di Transio, Argentina	www.favat.org.ar
Hellenic Association for Road Traffic Victimes Support, Greece	www.efthita.org
Ligue contre la Violence Routiere, France	www.violenceroutiere.org
Parents d'Enfants Victimes de la Route, Belgium	www.pevr.be
Prevention de Accidentes de Trafici, Spain	www.pat-apat.org
PoadCross, Switzerland	www.roadcross.ch
RoadPeace, United Kingdom	www.roadpeace.org
Salm and Salimar, Oman	www.salimandsalimah.org/personal.htm
STOP-ACCIDENTES, Spain	www.stopaccidentes.org
Verening Verkeersslachtoffers, Netherlands	www.verkeersslachtoffers.nl
Touth Association for Social Awareness, London	www.yasalebanon.com

付録 2

評価書式（サンプル）

貴組織が、犠牲者のためにこの世界道路交通犠牲者の日に計画した取り組みのプロセスと成果を評価するためにこの書式を使うことができる

1. 管理情報

組織名:

国名:　都市名:

年:

2. 準備

記念日をどれほど適切に計画できたか？ どれほどうまく取り組みを組織できたかを回顧し、利点と弱点をあげて、将来の取り組みで改善すべき点を挙げよ。

3. 取り組み

(a) 実行した取り組みを簡潔に記述せよ。下記の項目を入れること: 取り組みの種類、意図した対象者は？、参加人数、取り組みの期間。

(b) その取り組みが参加者に与えた影響、また、自分の地域や分野に与えた影響を簡単に記述せよ。

4. 追跡

実行した取り組みをフォローアップするためにどのような計画を持っているか？

フィードバックのお願い

私たちは、この指針をできるだけわかりやすくまとめることを心がけたが、改善の余地があることもわかっている。皆様のご感想やご意見をお願いしたい。特に以下の点について:

- 記念日を組織する上でヒント、または手助けになったか?
- この指針は理解しやすいか? 難しかったり判りにくい部分があるか?
- 将来の改定に際し、改善すべき点があるか?

お問い合わせは、下記に

世界保健機関(WHO)

Department of Injuries and Violence Prevention
20 Avenue Appia
Geneva 27
CH-1211 Switzerland
E-mail: traffic@who.int
Fax: +44 20 8838 5103
www.who.int/injuries_violence_pevention

ロードピース(RoadPeace)

PO Box 2579
London
NW10 3PW
United Kingdom
E-mail: info@roadpeace.org
Fax: +44 20 8838 5103
www.roadpeace.org
www.worlddayofremembrance.org

欧州道路交通犠牲者連盟

European Federation of Road Traffic Victims
PO Box 53318
London NW10 3WT
United Kingdom
E-mail: president@fevr.org
Fax: +44-20-8964 1800
www.fevr.org

家庭省大臣のスコットランド女男爵(中央)による献花。リバプール道路交通犠牲者の碑は、リバプール市議会とロードピースの共同で2005年の世界道路交通犠牲者の日の朝に除幕された。

ルクセンブルグの記念日には高位の方が毎回出席されている。例えばこの2002年の記念日では、御自分自身も犠牲者であられるギヨーム大公太子とシビラ王女が出席された。

記念日の目的は、わが同胞の遺族に対して連帯と友情を捧げるものであり、交通犯罪がもたらした惨状に目を向け、この虐殺の終焉を祈念するものである。

Brigitte Chaudhry, Founder RoadPeace, UK, and President, European Federation of Road Traffic Victims

ほとんど全例で技術的にリスクを予防できるにもかかわらず、近代社会はかくも膨大な犠牲者を容認している。殺人と傷害は、あらゆる宗教の倫理的基盤に関係しており、宗教の権威者たちは我々に対して、この不敬をはたらいた兄弟たちと、かれらの贖罪を支える我々の義務を思い起こさせる機会を、この日をもって我々に与えてくれる。

Rolf Strassfeld, Boad Member, RoadCross, Switzerland

南アフリカ共和国は、交通犯罪の多さで世界4 位といわれ、無関係な家族はまずいない。交通犯罪で命を奪われた者たちや、子どもや一家の働き手を殺された者たちを追悼するために、年に一日を捧げなければならない。

Moira Winslow, Founder and President, Drive Alive, South Africa

近親者たちには、愛する者を奪われた悲しみを表現し、亡くなった者のことについて語る機会を与えられる。それ以外の者は、これ以上悲劇を繰り返さないために、道では正しく振舞うことを約束することで、これらの者たちに敬意を表すことを忘れない機会とする。

Charalampos Katoglou, Boad Member, Hellenic Association for Road Traffic Victim Support, Greece

「朗報をお伝えします。重傷事件の後の道路はきれいになりました」と、ラジオが報ずる。しかし、その被害者には、家族には何が起こるのであろうか。被害者、破壊された家庭、苦しむ者たち……の長いリストに、また名前が加えられる。世界道路交通犠牲者の日に、これらすべての人々のことを心に留める。そして我々は、すべての道路ユ-ザーに対して安全と敬意と責任を持つ文化の実現に深く関わる。

Angelica Oidtman, Founder & President, Dignitas, Germany

この日は重要である。なぜなら、この大災害に関する情報の欠如が社会的無関心を引き起こしているからである。

Jean Picard, Vice President, STOP-ACCIDENTS, Spain

この記念日は、すべての犠牲者の連携を創る。他の人々は忘れようとするが、それは良くない。この追悼は家族の者にとって非常に重要である。その悲劇について語る必要がある家族、ろうそくに点火したり、儀式を行う家族などにとって。

Jeannot Mersch, President, Association nationale des Victimes de la Route, Luxemberg

交通死に関して沈黙という形で加担することは、集団的虐待の一種であり、歴史の退廃である。なぜなら、私は亡くなった者のことを思い出し、傷つきながら、悲しみを伴って、しかし、愛を持って語ることは、個人的な治療だけでなく、それ以上に集団的予防に役立つと信じるからである。亡くなった者を想いだし、実在した者の魂を呼び起こすのはそのためである。若くして暴力的に姿を消してしまったのではなく、今日でも生きていて、自分の夢を実現できたであろう彼らのことを。

Mauel Joao Ramos, Founder and President, Associacao de Cidadaos Auto-Mobilizados, Portugal

この日は遺族にとっての安らぎという意味で重要な日である。遺族とは、法制度からも役所からも、そして近代社会からも忘れられたかのように見える存在なのである。そして、この日は世界中で起こっている全く予防可能な惨事に対する社会の認識を高める意味でも重要である。

Anne-Lise Cloetta, International Relations, Prevencion de (Accidentes) de Trafico, Spain

交通犯罪で死傷した人の数は、人間が引き起こした惨事のうちで他をはるかに引き離す最大のものとなっている。この記念日は、この死傷者数が全く容認できないものであることを社会に明白にしている。人間としての悲劇という意味でも、経済的コストという意味でも。この記念日は、喪失したものを他者と分かち合う機会ともなる。そして、それによってこれを理解する過程に役立つかもしれない。

Hans van Maanen, Boad Member, Vereniging Verkeersslachtoffers, Netherlands

道路交通の犠牲者にも、他の被害者と同じように、自分たちは一人ぼっちではない、自分たちの苦しみを地域社会が考慮してくれていると感じられるような日、特別な日が必要である。

Jacquers Duhayon, Boad Member, Association de Parents pour la Protection des Enfants sur la Route, Belgium

ISBN 9241594527

World Health Organization

FEVR

RoadPeace